

文学部 人文学科 人文学(哲学)、および、国際コース・人文学(哲学) カリキュラム・マップ

	到達目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
	D. (他者を尊重する公平な姿勢) 先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する。市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。 C-2-1. (知識・理解の深化と統合) 本コース5つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法、研究方法を獲得し、知識を有機的に統合し、論文を作成することができる。 C-2-2. (独創性) 新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。 B-3 (哲学コース固有の課題) 過去の思想やその表現に対する批判的考察を通じて、人間存在を深く理解し、それを説明できる。								卒業論文
<共通>									
<哲学・哲学史>	B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 C-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。								哲学演習Ⅰ～ⅩⅢ(哲学の主要なトピックスと方法を、テキストの講読によって学ぶ演習)、近現代哲学演習Ⅰ～ⅩⅢ(学外の講師による集中講義)、教父中世哲学演習Ⅰ～Ⅶ(中世のキリスト教哲学を、テキストの講読を通じて学ぶ演習)、古代哲学演習Ⅰ～Ⅹ(古代ギリシアの哲学を、テキストの講読を通じて学ぶ演習)、英米哲学演習Ⅰ～Ⅶ(主に英語圏の分析哲学を、テキストの講読を通じて学ぶ演習) 哲学講義Ⅰ～Ⅶ(哲学の主要なトピックスと方法を学ぶ基本講義)、古代哲学講義Ⅰ～Ⅹ(古代ギリシアの哲学(プラトンやアリストテレスの哲学)に焦点を当てた講義)、教父中世哲学講義Ⅰ～Ⅳ(中世のキリスト教哲学を主題とする講義)、哲学史講義Ⅰ～ⅩⅡ(西洋哲学の歴史を読み解く基本講義)、英米哲学講義Ⅰ～Ⅶ(主に英語圏の分析哲学に焦点を当てた講義)
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>のギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語の中から3単位選択
<倫理学>	C-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								日本倫理思想演習Ⅰ～Ⅱ(研究の進め方や論文の書き方を身につけるための演習) 倫理学基礎論演習Ⅰ～Ⅶ(古代～近代の倫理学のテキストを講読する演習)、現代倫理思想演習Ⅰ～Ⅳ(現代倫理学の諸論議を検討する演習)、日本倫理思想演習Ⅲ～Ⅳ(日本倫理思想の古典的テキストを講読する演習) 倫理学基礎論講義Ⅰ(倫理学の講義)、倫理学基礎論講義Ⅱ(メタ倫理学の基礎講義) 倫理学基礎論講義Ⅲ～Ⅶ(倫理思想の諸相や各種倫理学理論についての講義)、現代倫理思想講義Ⅰ～Ⅶ(メタ倫理学および応用倫理学についての講義)、日本倫理思想講義Ⅰ～Ⅳ(日本倫理思想の諸相についての講義)
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>のギリシア語、ラテン語、英語、ドイツ語、フランス語の中から3単位選択
<インド哲学史>	C-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								インド文献学基礎演習Ⅰ～Ⅳ(インド古典学に関する講読演習)、インド哲学史演習Ⅰ～Ⅳ(インド哲学史に関する講読演習)、仏教学演習Ⅰ～Ⅳ(仏教学に関する講読演習) アジヤ宗教思想講義Ⅰ～Ⅱ・Ⅴ～Ⅶ(インドを中心とするアジヤ思想に関する講義)、インド哲学史講義Ⅰ～Ⅱ(インドを中心とする哲学史に関する講義)、仏教史講義Ⅰ～Ⅱ(南アジヤを中心とする仏教史に関する講義)
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>の古典語(サンスクリット)1単位は2年前期の必修科目。<共通>の英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から2単位選択
<中国哲学史>	C-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								中国文献学基礎演習Ⅰ～Ⅱ(中国古代、中世、近世、近代の文献学についての基礎演習)、中国哲学史演習Ⅰ～Ⅶ(中国古代、中世、近世、近代の哲学史についての演習) アジヤ宗教思想講義Ⅲ～Ⅳ・Ⅶ～Ⅷ(中国を中心とする東アジアの宗教思想についての講義)、中国哲学史講義Ⅰ～Ⅶ(中国古代、中世、近世、近代の哲学史についての講義)
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>の英語・中国・朝鮮語の中から3単位選択
<美学・美術史>	C-1-1. (文献分析力) 本コース5つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。 C-1-2. (研究方法) 本コース5つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史料や文献を収集できる。 C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。 B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								現代芸術論演習Ⅰ～Ⅶ(現代における芸術作品や芸術論に関する討論・文献講読)、西洋美術史演習Ⅰ～Ⅶ(西洋美術とその歴史に関する外国語文献講読)、美学芸術学演習Ⅰ～Ⅶ(美学・芸術哲学に関する外国語文献講読)、東洋美術史演習Ⅰ～Ⅶ(東アジアの美術とその歴史に関する原典講読)、美学美術史実習Ⅰ～Ⅳ(博物館学委員資格取得に必要な作品調査・フィールドワーク、美術館における作業を行う実習) 現代芸術論講義Ⅰ～Ⅶ(現代における芸術作品や芸術論に関する講義)、西洋美術史講義Ⅰ～Ⅶ(西洋美術とその歴史に関する講義)、美学芸術学講義Ⅰ～Ⅶ(美学および芸術哲学、芸術論に関する講義)、東洋美術史講義Ⅰ～Ⅶ(東アジアの美術とその歴史に関する講義)、芸術文化論Ⅰ～ⅩⅩ: 学外講師による美学、芸術作品、表象文化論に関する講義
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								<共通>の英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から3単位選択
<国際コース共通>	B-4. (国際コース固有の課題) 英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。 International Humanities Ⅰ～Ⅱ: Introduction to Japanese History, Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language, Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan 人文学課題探求演習Ⅰ～Ⅱ(長期の留学、海外での活動を単位として認める授業)								
	B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース5つの専門分野の諸領域のそれぞれの基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究方法を身につけ、それらを説明できる。 B-1. (人文学の広範な知識と理解) 人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身につけ、人文学固有の思考や方法を説明できる。								博物館に関する科目、図書館に関する科目、地域福祉の比較社会学、コミュニティの構造、情報機器操作入門、西洋古典学講義Ⅰ～Ⅳ、ジャーナリズム論Ⅰ～Ⅱ、現代史入門Ⅰ～Ⅱ 人文学基礎Ⅰ 人文学基礎Ⅱ 人文学Ⅰ～Ⅳ
	C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。								International Humanities Ⅱ～Ⅱ: Introduction to Japanese History, Ⅲ～Ⅳ: Introduction to Japanese Literature and Language, Ⅴ～Ⅵ: Introduction to Japanese Art and Visual Culture, Ⅶ～Ⅷ: Introduction to Japanese Religions and Philosophy, Ⅸ～Ⅹ: Analyzing International Scholarship on Japan <古典語>ギリシア語Ⅰ～Ⅱ、ラテン語Ⅰ～Ⅱ、サンスクリットⅠ～Ⅱ、漢文Ⅰ～Ⅱ <外国語>英語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語初歩Ⅰ～Ⅱ、フランス語初歩Ⅰ～Ⅱ、中国語初歩Ⅰ～Ⅱ、朝鮮語初歩Ⅰ～Ⅱ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、朝鮮語Ⅰ～Ⅳ、アラビア語Ⅰ～Ⅱ
<共通>	A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。								言語文化科目(Intensive English、学術英語、専門英語、初修外国語) 国際コースの学生は言語文化科目は17単位が必修(国際コース以外の学生は12単位)、17単位のうち第一外国語(英語)は12単位、第二外国語は5単位が必修。 文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、総合科目
	A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。								サイバーセキュリティ基礎論 高年次基礎教育科目 課題協同学科目、基幹教育セミナー、健康スポーツ科